

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「日頃の備えで減災へ」

宮城県 石巻市立蛇田小学校 6年 千葉 璃子

大雨の日が続いたり、大きな地震が起きたりすると、土砂災害が起こりやすくなります。テレビやラジオなどの情報を聞いても、自分の家は大丈夫と思ってしまい、避難が遅れることもあると思います。実際に、東日本大震災を経験した人は、地震や津波には敏感だけれども大雨などには少し反応がにぶいかもかもしれません。自分の身を守るためには、単純に警戒レベルだけで判断するのではなく、常に土砂災害についての心構えを高めておく必要があると思います。

小さい頃、砂で山を作り水を流して遊んだことがあります。最初は水で砂の山を固めてその後に流す水の量を増やすと、砂の山はすぐに崩れていきました。ふだんは身近な山でも雨の量が増えると土砂災害が起こる状態と同じだということを思い出しました。私が住んでいる石巻市の中でも雄勝地区などは降水量が多く、過去には土砂災害の被害もあったそうです。土砂災害の中でも、土石流は特に危険で、津波より恐ろしい災害だと思います。土砂災害や土石流は、いつ起こるのか予測が難しいと言われています。

土砂災害の被害を全く受けないということは、本当に難しいことです。私達は、被害を少しでも減らすことに取り組まなくてはならないと思います。まずは自分自身ができることを日頃から考えておくことです。別な言い方をすれば、自分の身は自分で守るということです。そのことを、「自助」とも言うそうです。そのためには日頃から家族で土砂災害について話し合っておく必要があると思います。まずは土砂災害について正しい知識を持つことです。他の場所で起きた土砂災害についてのニュースなどを見た時に他人事だと思わずに、実際に自分の地域で土砂災害が起こったことを想定してみることも大切です。母はニュースを見て、

「・・・土砂が流れてくる方向と逆の方向に逃げるのではなく、土砂が流れてくる左右の方向に逃げることも時には必要だ。」

と話していたことがあります。その他にも、いつでも避難できるように避難袋を用意するほか、避難情報を得られるようにしておくことも大切です。

次に考えたのが地域の中で助け合って、土砂災害の被害を小さくすることです。このことを「共助」と言うそうです。何とんでも地域の避難訓練に参加して避難経路や避難場所を確認することです。そのことによって地域の人に自分の存在を知ってもらうことにもなります。家族と離ればなれになっても安心です。ボランティア活動も共助の一つだと思います。物資を運んでくれる人、片付けを手伝ってくれる人、炊き出しをする人など、いざという時にはボランティアの活動が大きな力になります。

その次に考えたのは、国や県、市のはたらきです。そのことを「公助」と言うそうです。災害を防ぐために砂防ダムを造ったり護岸工事などをする他に、川の氾らんを防ぐことにも取り組んでいるそうです。エリアメールや防災無線などで災害情報を市民に伝えるシステムにも取り組んでいます。危険な可能性のある場所を何度もパトロールしているそうです。

そのような備えをしても、最近数十年に一度の豪雨やひんぱんに起きる地震などによって、予想を超える大きな土砂災害が起きています。災害にあわないようにすることは難しいのかもしれませんが、それでも、日頃から土砂災害の正しい知識を身に付けておき、意識を高めておく必要があると思います。そのことによって、いざという時に正しい判断で、できるだけ早く安全な場所に避難できるようになると思うからです。油断せずに、日頃から備えておくことがなによりも大切だと思います。